

「福祉レクリエーション」の 専門的職員の育成支援講座

東大和市レクリエーション研究会

〒198-0087 東京都青梅市天ヶ瀬町 990-4-207

助成事業の概要

実施の目的

「福祉レクリエーション」に関する最新の研究成果を総合的に学び各職場で「福祉レクリエーション」の専門職員として責任の持てる人材を育成する。

時期 平成23年4月～平成24年3月(全20回)

内容

理論講義として福祉レクリエーションの基礎理論、支援論、事業論及びコミュニケーションワーク(アセスメント・ホスピタリティ・アイスブレイキング)について学び、実技講習として目的にあわせたレク・ワークや対象にあわせたレク・ワークについて学んだ。特に実技に対する要望が強かったので様々なレク財を身につけられる様にした。具体的には対象者や目的に合わせたレク財として行事で使える大道芸の南京玉すだれや皿回し、手品を加え展開・支援の方法を学んだ。

また別途に集合ゲーム、ニューススポーツ、レクリエーションダンスも行った。更に演習として「さをり手織り体験」から自立支援の方法を学んだ。

事業の成果

目標達成速度

研修会参加者は当面する現場のニーズに応える為に理論学習より、様々なレク財を身につけたい

との意思が強かった。後半部はほとんどレク財の実技講習に当てた。このことで受講者は職場で行われる様々なレク支援の技術を身につけ、自信と余裕を持って勤務できるとの感想を得ている。また、クリスマス会等の機会を捉えて、レク財の発表会をしたことで、自分の身につけたレク支援財が職場だけでなく社会的な広がりやご自身の余暇活動としても意味を持ち始めている。このことで講習会終了後も更に研修会に参加しレク財を学び続ける為に、お互いにネットワークを作り活動したいとのことである。このことは今後のことを考えると、地域に良い結果を残せたと考えている。

得られた成果や課題

参加者はレク実技の面では満足度が高かったと推察している。今後は福祉現場で問題となっている「認知症」や高齢者特有の問題点をレクリエーションの視点でより掘り下げ、専門性を追求する必要があります。

参加者の感想

学んだ実技を職場で実践できたと嬉しそうに報告をうけたり、利用者と一緒にレクをすることが抵抗なくなったとか、自信と余裕を持って勤務できる様になったとの感想を得ている。

今後の展開

助成事業の成果や課題を踏まえた今後の展開

今回の事業は福祉現場でレクリエーション支援

をするには何が必要かを問題提起したと考えている。即ち施設にとってレクリエーションは入浴や食事といった生活支援や機能訓練の合間にある暇つぶしの時間のように意識され、担当する職員はあまり時間も準備もないまま役割分担されることが多い様です。ところが施設の利用者さん側からみると入浴や食事はもちろん大切ですがあまり意識されず、職員がレクリエーションで何をしたとか、何をやらされたかというのははっきり覚えていません。特にこの時間を無理矢理された事とか、嫌な思いをされるとその職員に対する最悪の評価になるのです。私どもは利用者に満足してもらえるレクの提供にはそれなりの準備と利用者の状態に合わせたレク支援が必要と考えています。このことにより更に満足度を得られるレク支援の在り方を研修していきます。特に「福祉レクリエーション支援」から利用者の様々な症状に合わせた「症状別レクプログラム」へと研修を深めていきたいと考えております。